平成３０年度　国立青少年教育振興機構Ｓ．Ｅ．Ａ．プロジェクト
「ＡＷＡＪＩうみのようちえん～８歳までの海遊教室～」

田村　暢章（国立淡路青少年交流の家）

はじめに

幼稚園児を対象に、海の豊かな自然における体験活動を通して海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を養い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする態度を育成するため、本年度は洲本市４幼稚園と連携して、海とふれあうことの魅力を実感してもらうことを目的に、「ＡＷＡＪＩうみのようちえん」と題した日帰りプログラムを実施した。

（日時）　平成３０年９月６日（木）７日（金）
（場所）　国立淡路青少年交流の家、吹上浜、礫浜
（講師）　田中　広樹　氏（株式会社海遊館）
　　棚田　麻美　氏（株式会社海遊館）
　　青木　京　氏　（青木将幸ファシリテーター事務所）

プログラムの内容

【うみのようちえん かいえん！】

洲本市の幼稚園年長児を招いて「ＡＷＡＪＩうみのようちえん」が始まった。開園式では、大本所長の「うみをからだいっぱい感じよう！」という挨拶の後、講師の田中先生からお話があった。「海にはどんな生き物がいると思う？」という問いかけに、「きれいなサカナ」「いろんなカイ」といった大まかな答えから、「カニ」「タコ」「ヤドカリ」といった見たことのある生き物、「サメ」「イルカ」といった人気のある生き物まで様々な答えが返ってきた。「絵に描ける人はいる？」と聞くと、一斉に手が上がる。「サカナ」「カニ」「クラゲ」「タコ」「イソギンチャク」と子どもたちが代わる代わる描いていく。３人が「サカナ」を描いたが、尾びれや胸びれの描き方がどれも違い、「本物はどうなってるのかな？」と疑問が沸いてくる。「今日の朝に見つけた生き物だよ。」と水槽を見せると、園児たちの目の色が変わった。水槽をのぞき込み、中にいるハゼやカニやウニを食い入るように見つめる。「いっぱいサカナがいる！」「早く捕まえに行きたい！」とモチベーションは最高潮に。

【安全チェックも万全に】

当所の隣にある吹上浜へ移動し、安全面についてもチェックを行う。園児は水着の上から長袖・長ズボンを着用し、ケガの防止に備えていた。まず、ライフジャケットの着用についてレクチャーする。園児たちは自分で着用し、大人のチェックを必ず受ける。次に、バディを確認する。３人１組で「バディ！」と言って手をつないで座る。最後に、磯の歩き方や注意点についてセーフティートークを行う。行きたい気持ちを抑えつつ、真剣に話を聞いていた。

【岩場を越えて】

磯観察をするため、バディの３人組で礫浜へ移動する。礫浜はごつごつした岩がむき出しになっており、足場が不安定になっている。始めは恐る恐る歩いていた園児たちだったが、姿勢を低くしたり、手を使って体を支えたりすることでバランスが取りやすくなることが分かってくると、どんどん動きが活発になってくる。少し怖がっていた園児もいたが、友だちがコツを掴んで岩場を進んでいく様子を見て、自分もチャレンジしていた。移動中も「フナムシがいっぱいいる！」「岩にカイが張りついてる！」と周りを見渡す余裕が出てきた。

【タイドプールをよく見ると…】

礫浜にはタイドプール（潮だまり）がたくさんできていた。園児たちは思い思いの場所で、手網を片手に磯に潜む生き物を探す。始めは、「全然生き物おらん。」と言っていたが、同じタイドプールをじっと見つめていると、そこに素早く動く影が。「サカナや！」「岩と同じ色してる！」と声が上がる。みんなで捕まえようとするが、簡単には捕まえられない。講師の先生に教えてもらって、岩をそっと持ち上げてみる。「カニがおる！」歓声が上がる。恐る恐るイソギンチャクを触っている園児もいた。「あっ、小さくなった！」と不思議そうな顔をしている。図鑑で見たことのある生き物でも、本物を見るのは初めて。小さいハゼでも、とてもすばしっこい。カニもハサミを振り上げ、なかなか掴ませてくれない。しかし、園児たちの集中力や対応力はすごい。少しずつコツを掴み、生き物を捕まえられるようになってきた。「サカナが２匹入った！」「カニ、重たい！」と楽しそうだ。服が濡れるのも全く気にせず、箱メガネを持って深いところにも入っていく。気が付けば、バケツの中は生き物でいっぱいになっていた。捕まえた生き物を水槽に集めると、「磯の水族館」が完成した。

【「磯の水族館」を観察しよう！】

最後に振り返りを行った。みんなで作った「磯の水族館」を囲んで、生き物についてお話を聞く。「カニのオスとメスの違いって？」「ウニはどうして岩にくっつくの？」生き物の体の作りや生きるための知恵が解き明かされていく。園児たちは、カニの腹を見て「このカニはオス！」、ウニを触って「水から出すと菅足がひっこんでる！」と、教えてもらったことを確かめていた。海に行ったことはあっても、生き物と触れ合う経験はなかったようで、初めての体験に園児たちは「楽しかった。」「また来たい。」と口を揃えていた。帰る直前まで水槽をのぞき込んでいる園児がおり、関心の高さを感じた。園児の「サカナを捕まえるのは難しかったけど、捕まえられてうれしかった。」「今日は何も捕れなかったけど、楽しかった。また海に来たい。」などの感想が印象的だった。

【参加した幼稚園の先生より】

・岩場で生き物を探している時、自然と手を使いながら歩くなど、自然の中での行動の方法が身に付いているように感じた。また、開放的な自然の中で新鮮な体験ができ、子供もいつも以上に主体的に行動できていた。
・普段は活発な子供が、海に入ったことがなく、岩場を怖がっていた。しかし、サカナを見つけたとたん笑顔が見られた。子供が興味をもつものが海にはたくさんあり、気持ちが解放されるんだと感じた。
・後日クラスで「うみのようちえん」の話をすると、普段口数の少ない子供が、サカナを捕まえた話を生き生きとしていた。
・生き物を見た時に、体の特徴や性別などに興味をもつようになった。
・生き物を捕まえた時に、「かわいそうだから逃がしてあげよっかな。」と発言するなど、生き物を思いやる気持ちが育っているように感じた。

最後に

淡路島は海に囲まれており、身近に海がある。それでも、海に行く機会に恵まれない園児もいる。安全に配慮した環境で思い切り海に親しむことができ、幼児期の子どもの原体験を提供できる本事業の教育的価値は高いと感じる。これからも、幼児期に海を身近に感じ、進んで自然と関わろうとする態度を育成していきたい

国立淡路青少年交流の家
〒656-0543
兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 757-39
HP　http://awaji.niye.go.jp/hp/
TEL　0799-55-2696